

伊藤忠商事 繊維カンパニーの挑戦！ 事業会社 18 社を巻き込む 生成 AIアジャイル普及術



Tokyo

Proprietary

セッション概要

伊藤忠商事繊維カンパニー・繊維デジタル戦略室様と
Google Cloud・生成 AI の PoC を驚異的速度で
1,000名 超が活用する規模にまで拡大する道のりを、
環境構築を支援するジーアイクラウドの視点と共にご紹介。
各事業会社への展開を成功させた推進体制、活用事例を説明します。

アジェンダ

- 01 登壇者紹介
- 02 PJ発足の経緯と変遷
- 03 PJの取り組み方
- 04 まとめ
- 05 最後に

01. 登壇者紹介

森本 修平

ジーアイクラウド株式会社
SIグループ マネージャー

Google Cloud
Partner Top Engineer 2025
受賞



クラウドで、 世の中をもっと **ハッピー** に

社名	ジーアイクラウド株式会社 (略称: GIC)
設立	2021年4月
資本金	1億円 (資本準備金含む)
代表者	鳥内 将希
社員数	50名 (エンジニア: 40名) ※2025年7月1日時点
事業内容	Google Cloud を基盤としたシステムインテグレーション
所在地	東京都港区南青山2-5-17 ポーラ青山ビルディング4F
親会社	伊藤忠インタラクティブ株式会社 (伊藤忠商事100%出資)



受託開発・技術支援を中心に、お客様のニーズにあったサービスを提供



Development

- インフラ基盤構築
- アプリケーション開発
- データ分析基盤構築
- 生成AI/機械学習導入



Resale

- Google Cloud 請求代行
- Google Workspace
ライセンス販売



Support

- 技術支援
- 内製化支援



Solution

- データ分析基盤
クイックスタート
- 生成 AI 活用
クイックスタート
- Agentspace
バーティカルスタート

丸山 篤司

伊藤忠商事株式会社
繊維デジタル戦略室 マネージャー



人々の豊かさを担う伊藤忠グループ

伊藤忠グループは、人々の暮らしを支えるさまざまな商品やサービスを提供するため、原料等の川上から小売等の川下までを包括的に事業領域としています。



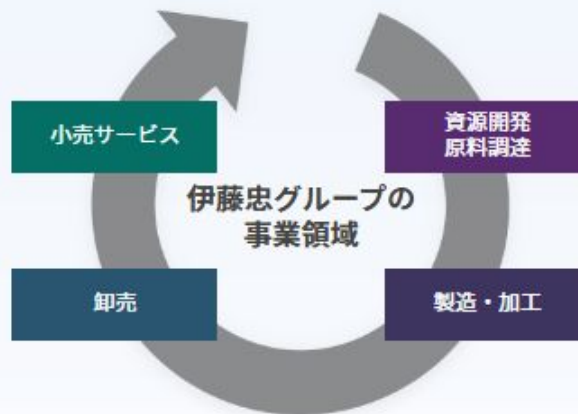
繊維カンパニー



金属カンパニー



食料カンパニー



機械カンパニー



エネルギー・化学品カンパニー



住生活カンパニー



第8カンパニー

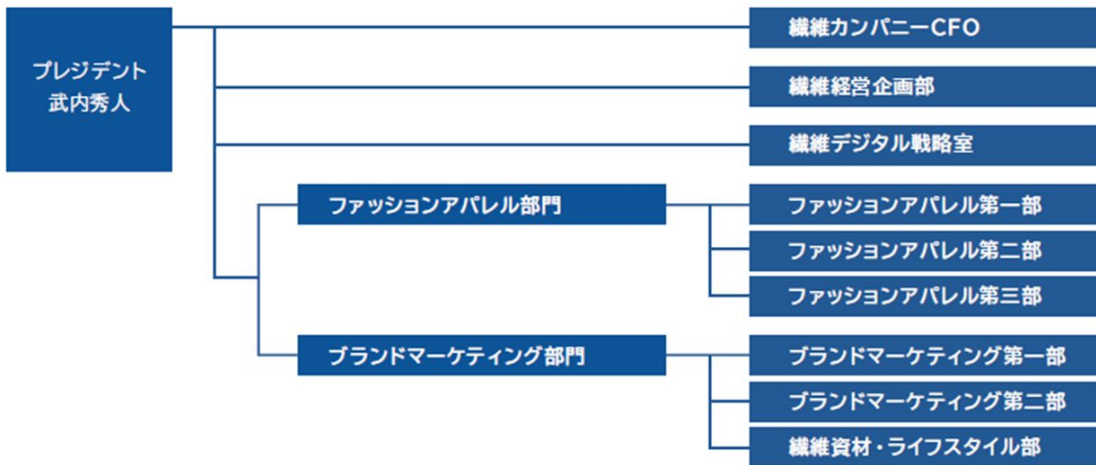


情報・金融カンパニー

ITOCHU

伊藤忠商事繊維カンパニー

繊維カンパニー 組織図 (2023年4月1日現在)



繊維カンパニー 事業会社

CONVERSE

DESCENTE



Paul Smith



02. PJ発足の経緯と変遷

繊維デジタル戦略室 Dataloom Project について



Dataloomとは、
データの織機 (loom) のこと。
種々のデータを織り合わせるとともに
繊維業界の伝統とデジタル技術を織り
ビジネスを進化させる。

● 目的

- 繊維Coのデータ活用環境をモダナイズし、データドリブン経営を促進することで、顧客価値を最大化すること

● 手段

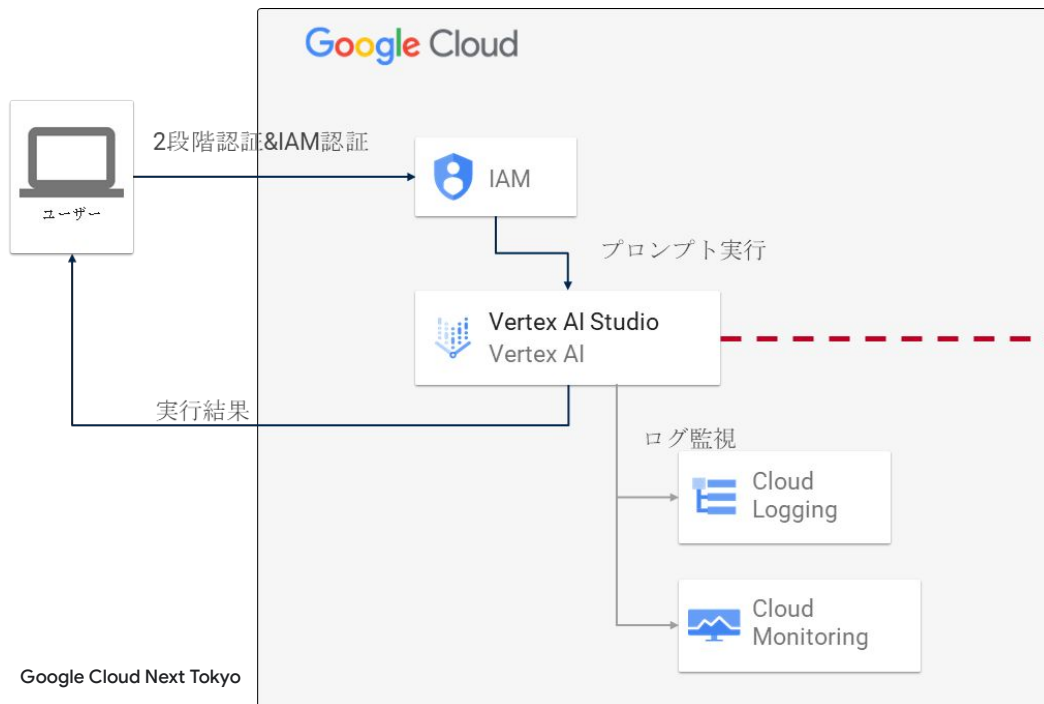
- Google Cloud 環境を活用し、ノーコード・ローコードのデジタル化を促進する(エンジニア内製化、AI民主化)
- 組織を横断した顧客視点のデータ分析が出来る CX組織を組成し、データ活用PDCAを構築・高速化する

● Google Cloud を選んだ理由

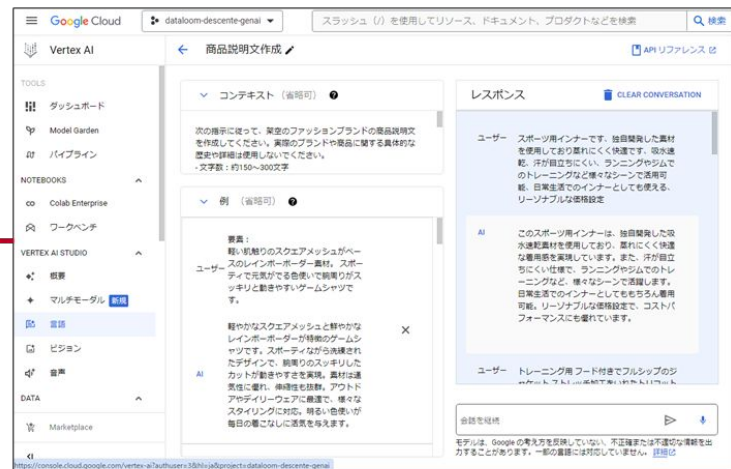
- DWHとしてのBigQueryの強み
- Google Analytics (GA) の重要性
- 生成AI x データが可能なクラウド環境

Dataloom Project の生成 AI 活用環境

- 繊維デジ戦が管理運用する Google Cloud 環境にて各種生成 AI プロダクトが使用可能
- 会社とは別のドメイン (@dataloom.jp) を取得し、Google Cloud を組織レベルで管理



Vertex AI Studio

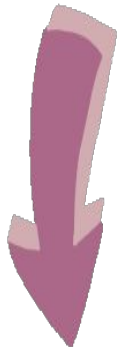


Google Cloud の最新 AI が活用可能

伊藤忠繊維 Co.での生成 AI活用浸透の経緯



繊維デジ戦の生成 AI 浸透拡散アクション



01

研究・開発 / Research & Development

生成AIで解決できる業務課題を探す、感動を与える
情報収集、実証実験、事例構築

02

発信・教育 / Knowledge Sharing & Empowerment

事例を集め資料化し、発信して横展開する
勉強会、セミナー、ワークショップ

03

拡散・発展 / Networking & Expansion

ハブとなりネットワークを広げ、各社の生成 AI活用を推進する
Googleユーザー会、各社でタスクフォースチーム組成



生成 AI アジャイル普及術

最先端の環境提供



- 生成AIは進化が早すぎる。お金や人をかけて自社開発するのではなく、**世の中の最新の環境**をユーザーに提供することが大事。

感動の共有



- ユーザーの目の前で実践し、**これは使えるという感動を与える**。生成AIはトレーニング不要で即座に使える。事例や感動は周囲に共有して広めていく。

賢く使おうとしない



- 業務棚卸から始めてKPI設定やROI算出に固執せず、**まず試してみる**ことが大事。生成AIは業務改善ではなく作業改善から始まることが多い。

ニーズを待たない

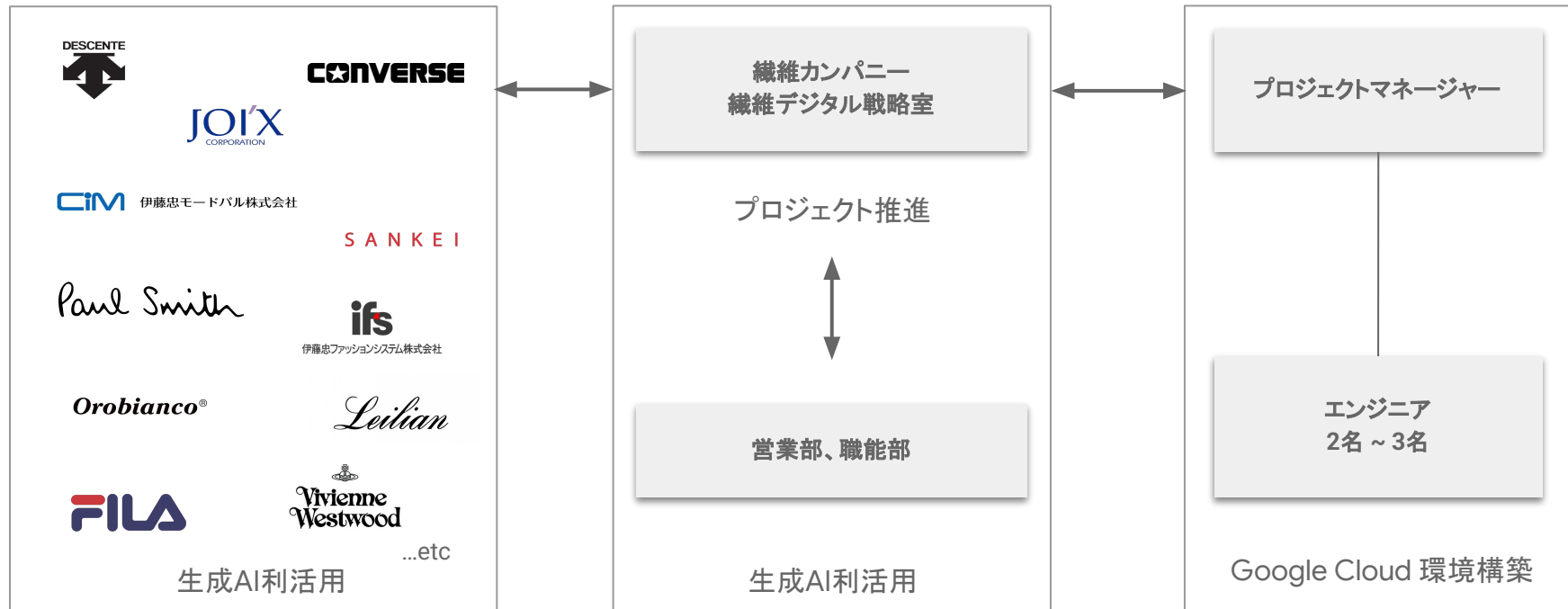


- ニーズを拾ってから開発するのではなく、まず生成AI活用環境を提供する。その後ニーズが生まれ、アプリが生まれてくる。**これまでのシステム開発とはフローが異なる**。

03. PJの取り組み方

プロジェクトの体制

伊藤忠運営ブランド
繊維カンパニー事業会社



当社(GIC)の役割

1 Google アカウント 管理

利用に応じた最適なプランの提案(Cloud Identity / Google Workspace)
ユーザーやグループの作成、各種設定をサポート

2 Google Cloud インフラ設定

セキュリティポリシーに準拠した Google Cloud 環境の設計・実装
※ 組織、プロジェクト作成、IAM、セキュリティ設定
運用を見据えたガイドラインやパラメータシート作成

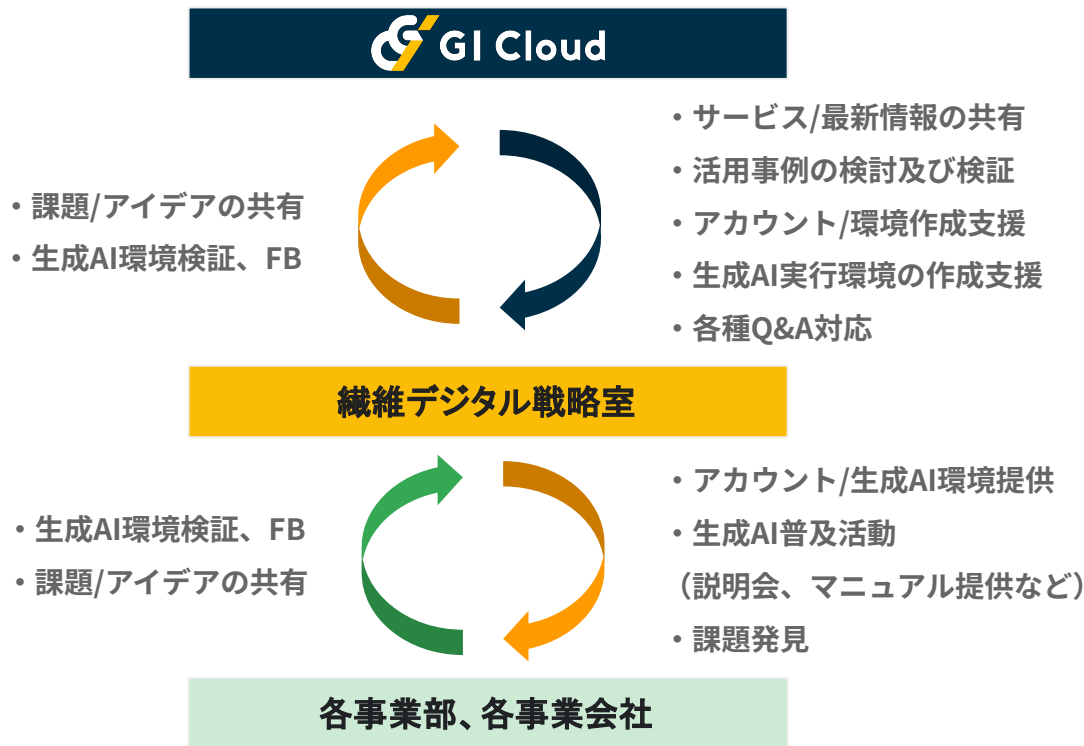
3 生成 AI 実行環境・DWH 構築

生成 AI の環境構築、活用伴走支援、データ分析基盤構築
※ 繊維デジタル戦略室様とワンチームとなり、課題ヒアリングをはじめ、複数の環境構築・精度検証・チューニング・アプリケーションを構築

4 生成 AI アプリの開発・運用

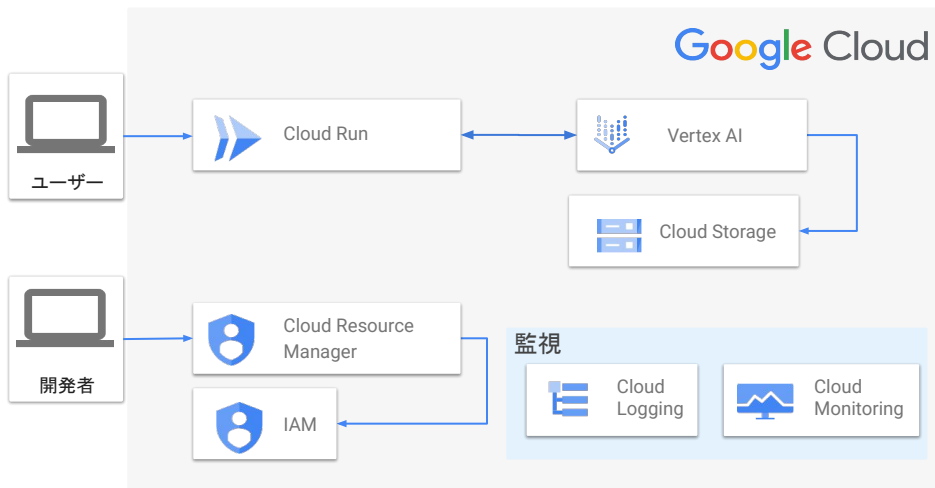
業務での実用性が確認できた環境を本格運用を見据えインフラ強化、ユーザビリティの高いアプリ開発、運用強化

プロジェクトの進め方



PJ 主幹チームによる
『課題オーナーシップ』
が重要であり、
ジーアイクラウドは
『スクラム体制を構築し
ワンチーム』
となりご支援しております。

アプリの紹介(印紙判定アプリ)



2. 契約期間:

- 2025年4月1日から2026年7月1日までです。

3. 契約金額:

- 1,000,000,000円

4. 該当する号数:

- 13号: 債務の保証に関する契約書に該当します。

結論:

上記内容に基づき、本契約は **13号: 債務の保証に関する契約書** に該当すると判断されます。

III 印紙税判定

① 非課税文書に該当しません。

② 根拠: この契約書は"号": "13号"、"種類": "債務の保証に関する契約書"、"条件": nullに該当し、税額は200円です。

③ 印紙税額: 200円

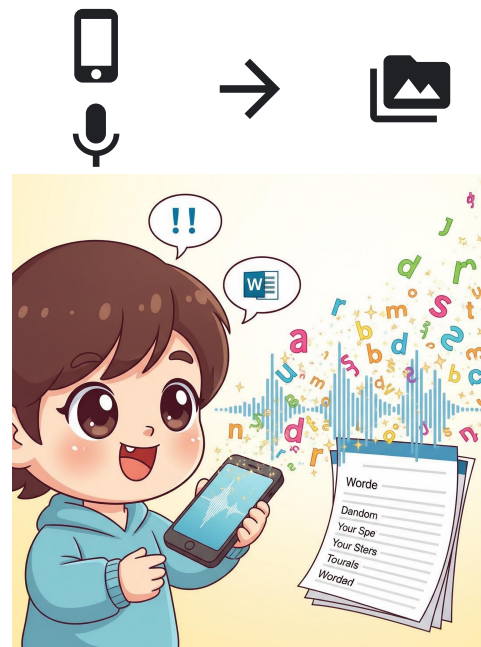
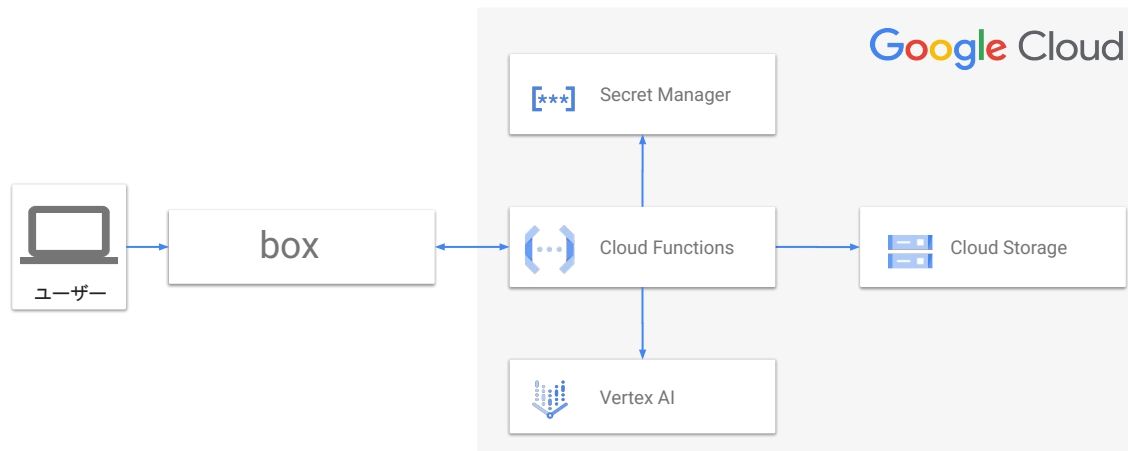
● 機能

- 契約書を Gemini に読み込ませ、収入印紙の号数、印紙税額を算出する

● ポイント(気をつけたこと)

- 精度を向上させるため、プロンプトは**1回** で全て完了させない。(分割も視野に入れる)

アプリの紹介(議事録アプリ)



- 機能

- 音声データから Gemini で議事録を作成し、Word 形式で保存

- ポイント(気をつけたこと)

- ワンストップで議事録が作成され、結果を確認できる
- プロンプトは Cloud Storage に格納して、適宜修正する

04. まとめ

本質的な「気づき」と変革への「示唆」

1

生成 AI は、アジャイルで進める

安くて早くて簡単、失敗してもすぐやり直せる、組織もアジャイルに動く必要がある

2

生成 AI は、個人の能力を拡張する

業務改善の前に個人の能力拡張に使う、情報検索の変革、生産性の向上、想像性の拡張をもたらす

3

生成 AI は、ユーザーがアプリ開発者

これまでのシステム開発や導入とは異なる、情シスだけではうまく広められない

今後の取り組み



生成 AI を使う

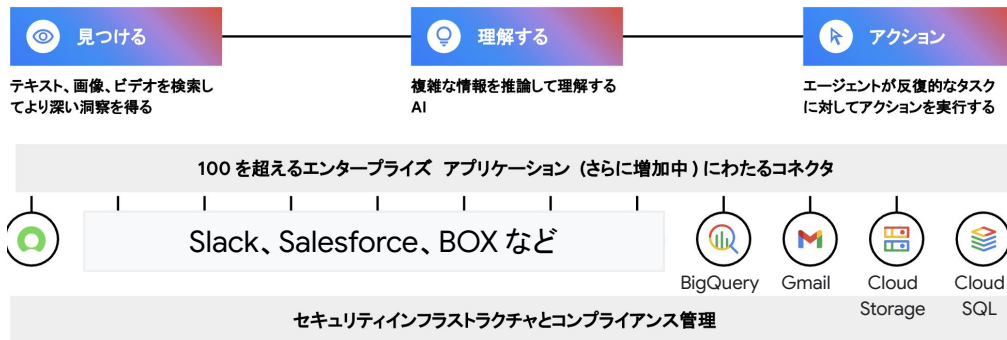


データを整える

- 生成 AI を最大限活用するには、**データの整備** が重要
- Google Cloud 最新AIサービス「**Agentspace**」のご提供、導入のご支援も可能

企業 が生成 AI を活用するための

インフラ構築から伴走型でご支援いたします





ご清聴ありがとうございました。